

平成 29 年度の研究について

荒川区教育研究会小学校理科部

1 研究主題

見方・考え方を働かせて資質・能力を養う理科学習

2 主題設定の理由

荒教研小学校理科部（以下、理科部とする）では、昨年度まで「意欲的に問題解決に取り組む児童の育成」の研究主題のもと、研究を進めてきた。これまでの研究において、問題解決の問題づくりや考察といった場面に絞り、それぞれの場面に応じた手立てを工夫したり、昨年度は過去 3 年間の研究の成果を生かして問題解決の場面を限定せず、単元の特性を生かして、単元全体を通して問題解決に取り組めるよう単元計画を工夫したりすることで、児童が問題解決に意欲的に取り組めるよう研究を進めてきた。

その結果、教員は問題解決の過程を意識しながら指導計画を考えるようになり、児童は意欲的に問題解決に取り組む姿が見られるようになった。

そこで、今年度は学習指導要領の改定と全小理東京大会を踏まえ、新学習指導要領の趣旨をよく理解し、区内の教員にその成果を還元していくために都小理とも連携しながら研究を進めていくことにした。都小理の研究主題「自然と向き合い、多様な考えを受け入れ、主体的に問題を解決する理科学習～科学的に問題を解決するために必要な資質・能力の育成～」、足立地区の研究主題「見方・考え方を働かせて資質・能力を養う理科・生活科学習～観る・考える・つなげる～」をうけ、理科部では、研究主題を「見方・考え方を働かせて資質・能力を養う理科学習」とする。

足立地区の研究との連携を深めることで、都小理の研究をよく理解し、それを通して学習指導要領改定の趣旨や、「理科における見方・考え方」「問題解決のプロセス」「理科で育成する資質・能力」についての共通理解を図り、区内の教員に発信していきたい。

3 研究の方法

- ・問題解決のプロセスを大切にし、単元計画を行う。
- ・問題解決のプロセスの中で、**考察・結論**の場面に重点を置いて研究を行う。
- ・考察・結論の場面において**思考ツール**を活用し、問題解決のプロセスの中で得られる考えの妥当性を追究する。

4 研究組織

- ・中学年分科会
- ・高学年分科会

足立地区の提案では

KJ 法的手法、ピラミッドチャートが出されています。

他には？

ベン図、ウェビングマップ、座標軸、マンダラチャート
ダイヤモンドランキング、クラゲチャート…